

千葉県知事 森 田 健 作 様

要 望 書

【令和2年度第1回定例会】

千葉県町村議会議長会

目 次

第 1 健康福祉行政の充実強化について

- 1 子ども医療費助成等の拡充について …………… 1

第 2 県土整備行政の充実強化について

【道 路】

- 1 安食交差点改良の推進について …………… 2
- 2 地域高規格道路茂原一宮道路（長生グリーンライン）及び
県道 南総一宮線の整備促進について …………… 3
- 3 県道茂原白子バイパスの建設促進について …………… 4
- 4 県道日吉誉田停車場線の改築事業化について …………… 4
- 5 県道南総一宮線水沼地先南郷トンネル等の道路改良事業
の促進について …………… 5

【河川・海岸】

- 6 二級河川夷隅川の河川整備について …………… 5

第 3 教育行政の充実強化について

- 1 国史跡の保存整備について …………… 6

第 1 健康福祉行政の充実強化について

1 子ども医療費助成等の拡充について

子ども医療費助成制度について、県は入院の助成対象を中学 3 年生まで、通院・調剤の助成対象を小学 3 年生までとしている。

しかし、現状は、自治体が独自に上乗せ助成を実施しており、自治体間で助成内容に格差が生じている。

この格差を解消することは、子育て世代の経済的負担を軽減するという国の方向性とも合致し、少子化社会においては重要な施策である。

については、次の事項を要望する。

- (1) 通院・調剤の助成対象を入院の助成対象と同様に中学 3 年生まで拡充すること。
- (2) 高校生までの入院・通院・調剤に係る、自治体独自の上乗せ助成について、現物給付の実施にむけた検討をすること。

第2 県土整備行政の充実強化について

【道 路】

1 安食交差点改良の推進について

国道356号は銚子から我孫子まで約122kmの延長をもつ一般国道として千葉県の経済を支えている大変重要な道路である。

しかし、利根川方面から印西市小林方面へ向かう右折車線が無い
ため渋滞が慢性的に発生し、さらに道路幅員が狭く歩道が整備されて
いないため、住民の安全が大変危惧される状態にある。

については、平成30年度より交差点改良事業に着手されているところ
であるが、この交差点改良事業の緊急性を考慮し、令和2年度早期に、
用地買収と工事の着手を図り、令和3年度末までの完成を要望する。

2 地域高規格道路茂原一宮道路（長生グリーンライン）及び 県道南総一宮線の整備促進について

地域高規格道路茂原一宮道路（長生グリーンライン）は、長南町から茂原市間の約7.2kmが整備区間となり整備が進められている。

しかし、茂原・一宮間の約4kmは未だ調査区間であり事業に着手していない状況である。外房地域の都心からのアクセス向上及び活性化を図るためには、本道路の果たす役割は大変重要であり、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）と一体となって双方の機能が最大限発揮されるものである。

については、次の事項を要望する。

- (1) 茂原・一宮間を整備区間に格上げし、全約11.2kmの整備促進を図ること。
- (2) 長生グリーンラインと国道128号を結ぶ予定である県道南総一宮線（一宮バイパス）の道路改良事業については、地域防災の観点からも非常に重要であるため、整備を促進し、早期の完成を図ること。

3 県道茂原白子バイパスの建設促進について

主要地方道茂原白子線は、茂原市本納地区から白子町の海岸部までを結ぶ東西道路軸であり、国道や鉄道のない白子町では非常に重要な道路である。

しかし、県道茂原白子バイパスが平成5年に事業化され25年経過するにもかかわらず、工事の進捗率は事業費ベース23.0%、距離ベース13.0%と極めて低い。

そのような中、首都圏中央連絡自動車道（東金JCT～木更津IC）開通に伴い、種々観光振興策が練られ、本路線整備への期待が益々高まっているが、県道五井本納線と接道する国道128号近辺については未だに工事着手がなされていない状況である。

については、九十九里有料道路とのアクセス道路として、また、災害時の避難道路としての重要性を鑑み、県道茂原白子バイパスの早期完成を要望する。

4 県道日吉誉田停車場線の改築事業化について

県道日吉誉田停車場線は、3本の主要地方道（五井本納線・千葉茂原線・市原茂原線）を結ぶ主要な路線であり、近年は観光目的の車輛や物流関連の大型車輛の交通量が著しく増加している。

しかし、未だに一車線の狭隘区間においては、すれ違いに苦慮する箇所もあり、特に地域の学童は極めて危険な状態での通学を強いられている状況である。

加えて、茂原長柄スマートインターチェンジ（以下SICという）が令和2年2月16日に供用開始となり、近接する本路線の重要度は益々増加する一方、脆弱な路線への不安も一層増している。

については、本路線とSICが一体的な機能を果たすため、全線の改築事業化を要望するものである。

5 県道南総一宮線水沼地先南郷トンネル等の道路改良事業の促進について

長南町水沼地先の県道南総一宮線は、狭隘で待避所による大型車の交互通行や見通しの悪いカーブが存在する危険な状況にあり、市原市境の南郷トンネルでは、乗用車同士の交互通行が不可能で、観光バスの通行にも支障をきたしている。

この道路は、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の市原鶴舞ICにアクセスする主要道路であり、観光及び物流、また圏央道の整備効果を地域に波及させる重要な役割を担っている。

については、南郷トンネルをはじめとした道路改良事業の促進を要望する。

【河川・海岸】

6 二級河川夷隅川の河川整備について

近年は、地球温暖化等による異常気象により、大型台風や集中豪雨が原因で河川の氾濫による浸水被害や土砂災害が国内で毎年発生しており、各地で甚大なる被害をもたらしている。

夷隅川は、勝浦市にその源を発し、数多くの河川をあわせ大多喜町の市街地を經由していすみ市において太平洋に注いでいる二級河川で、昭和45年及び同46年と続けて大雨による浸水被害が発生し、特に昭和45年の集中豪雨では甚大な被害が発生している。

については、地域住民の安心・安全を確保し、活力あるまちづくりのため、夷隅川の河川整備計画を早期に策定し、事業化を図るよう要望する。

第3 教育行政の充実強化について

1 国史跡の保存整備について

文化財の重要性、価値は一自治体だけのものではなく、広く県民の大切な資産でもある。

しかしながら、文化財保護事業の実施は大きな財政負担を伴うため、手厚い補助金がなければ、財政規模の小さな自治体は、事業実施を断念せざるを得ない状況である。

については、重要な史跡に対する十分な保護措置等の事業を、円滑かつ継続して進めるため、県からの事業補助率を引き上げ及び補助金限度額の撤廃を要望する。